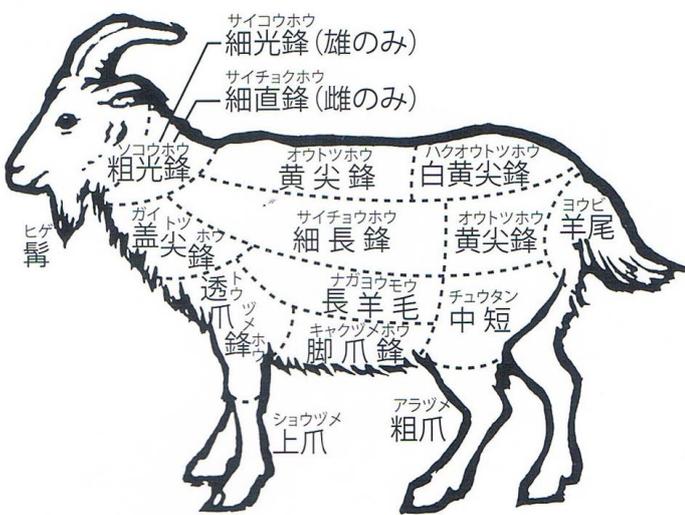


# 筆に使われる主な毛の種類と特徴

## ■羊毛

筆に使われる羊毛とは山羊の毛のことを指します。山羊の中でも中国江蘇省の長江下流の地域で飼育されている食用の山羊が、筆の原料となります。他の地域の山羊では毛の弾力が不足して使用できません。一匹の山羊の毛は部位によって何十種類にも選別され、雄山羊の首筋の一部から取れる上質の毛を細光鋒と呼び、毛筆原料の絶品として古くから知られています。逆に背の部分の毛は粗く、毛先が近いので筆原料としては良いものではありません。したがって、一番安価なものから最高級品まで、一匹の山羊から作ることが出来るといっても良いでしょう。

## 山羊毛原料の区分



### 【細光鋒】

毛先が遠く細いが、毛の根の方がしっかりして、全体的にほど良い弾力があります。原料が希少であるため、細光鋒を使用した純羊毛筆は最高級品といえます。

### 【細嫩光鋒】

細光鋒と同じ部位ですが、若い山羊の細光鋒を細嫩光鋒と称しています。毛が細いので弾力がありません。

### 【細直鋒】

羊毛は基本的に雄の毛のみを筆の原料としますが、細光鋒にあたるメスの部位を細直鋒といいます。毛が短いので出鋒5 cm程の筆が最大となります。

### 【細長鋒】

羊毛の中で一般的によく使われる原料ですが、毛の品質がまちまちなので、細長鋒の羊毛筆といってもさまざまなものがあります。

### 【粗光鋒】

毛先が近く、毛質が粗いので原料として上質とはいえませんが、毛の持つ弾力がありますので、これを主原料とした羊毛筆は扱いやすいものとなります。

### 【透爪鋒】

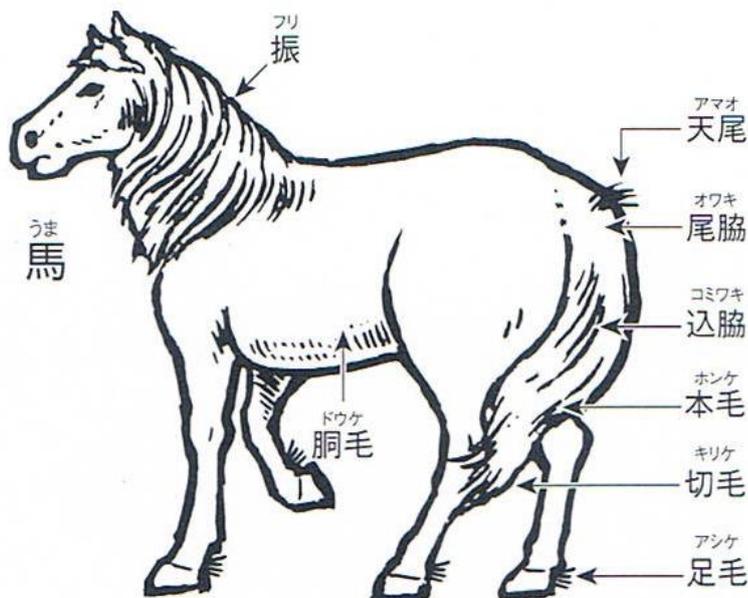
毛が短いので小筆に使用されます。ほど良い弾力があり、仮名用筆に向いています。

### 【羊毛・ひげ】

弾力が強いので、筆の弾力を持たせるために腰毛として混ぜて使用します。

## ■馬毛

主に農耕馬が筆の原料となり、北海道産のものが良いとされますが、今ではほとんど原料として流通していません。それに近いものが北米産のものになりますが、いずれも原料として高価です。安価に手に入れるものとして中国産のものがありますが、上記と比較して毛の持つ弾力はやや劣ります。馬の尻尾の根元に生えている毛を天尾とよび、最高の弾力があります。天尾は剛毛、兼毛の太筆に使用され、筆の弾力を持たせるために使用します。馬の腹毛はやわらかく腰がないので単体では筆には出来ませんが、一般的な兼毛筆の上毛として巻いています。馬の尾は筆の原料の中で一番長いので、出鋒 12 cm以上の大筆には必ず使用します。馬毛は総じて剛毛といえますが、質感が羊毛に似ているモンゴル馬の尻尾を使い、軟毛の大筆を作ることもあります。



## ■イタチ毛

筆の原料として使用できる部位は尾の上側のみで、その他の毛は短くて使用出来ません。

寒い地方のイタチほど毛が長くしっかりしています。

とれる地域により毛の持つ特徴がそれぞれありますので、用途にあわせて使い分けています。筆に使われるイタチは、中国、ロシアのものがほとんどですが、ロシア産のものをコリンスキーと呼んでいます。動物の毛全般に言えることですが、雌より雄の毛の方が長く弾力がありますので、イタチも雄の毛を使った筆が良いものになります。

イタチを中国語で黄狼尾（ホワンルアンウェイ）ということから、イタチ毛の筆を狼毛筆と呼びます。

イタチ毛は主に細筆の原料となりますが、毛が最長でも 8 cm程で、出鋒 6 cm程が最も大きいイタチ毛の筆になります。

イタチの長い毛は大変希少であるためイタチを主原料とした太筆は高価になります。

毛質はほど良い弾力があり、毛先が鋭くまとまります。紙あたりが良く、なめらかに滑ります。トメ、ハネ、ハイがきれいに表現できる特徴がありますので、楷書、行書、仮名の筆に使われます。

## ■ 兎毛（紫毫）

兎は最古の筆とされている長沙筆の原料として使われており、中国では紀元前 200 年以上前から使われていたと考えられています。兎の毛も羊毛同様、何種類にも選別され、中国では毛の選別をする職人によって筆の良し悪しが決まると言われていました。代表的なものは紫毫と呼ばれる黒い兎の毛で、切っ先が強く、トメ、ハネ、ハライがきれいに表現でき、写経用の筆によく使われます。他には白尖（バイヂェン）・花尖（ホワヂェン）と呼ばれているものがあり、白尖は唐筆（写巻）の原料となっています。

## ■ 猫毛（玉毛）

筆に使われる猫の毛は、原種に近い猫からしかとれず、通常白猫の毛を使います。背筋の綿毛の間に生えているほんの僅かなさし毛しか筆の原料になりません。猫の毛は別名玉毛といって、毛の中ほどにふくらみがあり、切っ先に力があり独特の粘りがあります。細い線を引くのに向いており、仮名筆として用いられます。

## ■ 狸毛

狸毛を主原毛とした兼毛筆は先に弾力があり、穂先の開閉に優れた筆になります。日本狸は特に上質で、トメ、ハネ、ハライ等美しい線を表現します。

弘法大師（空海）が嵯峨天皇に献上したとされる筆は狸毛筆であったとされています。

## ■ 鹿毛

鹿毛は主に細筆に使用し、鋭く粗く弾力性に乏しいので、通常、筆の先端に使う事は出来ませんが、筆の腰などに使用して力や姿を整えます。

## ■ ムジナ毛

アナグマの類の毛のことで、抜群の弾力を有しますが、毛が粗いのでまとまりはあまり良くありません。

## ■ 牛耳毛

値有のある弾力性で、これを混ぜた筆はまとまりが非常に良くなります。

## ■ 豚毛

豚毛は毛先が二本に割れているので、毛先を切り落とし、腰毛として使用します。筆原料のなかで一番毛質が硬いものになります。

## ■ 人造毛

動物の毛が年々高価になり、入手困難になりつつあります。安定して入手可能でほど良い弾力が有るので、使用する割合が近年増加しています。